

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年7月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2872201120		
法人名	医療法人社団 西村医院		
事業所名	グループホーム にしむら		
所在地	(〒 675-0019) 兵庫県加古川市野口町水足1857		
	電話	0794-56-8855	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年6月6日	評価確定日	平成21年7月21日

【情報提供票より】 [平成21年5月29日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	33人	(常勤9人) (非常勤24人)	/ 常勤換算19.8人

(2) 建物概要

建物構造	簡易耐火平屋造り		
	地上1階建て 2棟		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	28,000円
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ <b>無し</b>		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り ( 円 ) <b>無し</b>	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食	200円	昼食 300円
	夕食	400円	おやつ 200円
	または、1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (平成21年5月29日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性1名) (女性17名)
要介護1	7名	要介護2 1名
要介護3	5名	要介護4 1名
要介護5	4名	要支援2 0名
年齢	平均90.2歳	… (最低82歳) (最高106歳)

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村医院 神鋼加古川病院 後藤整形外科 むかい歯科
---------	---------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

平屋建の2棟(各1ユニット)が中庭をはさんで建つ。ベッドにいたることが多くなった利用者については、ポジショニング療法を(職員が学び)導入するなど、ケアのいろいろな面で利用者への熱意が強く感じられる。看取りについても、「重度化や終末期においても、住み慣れたホームで生活を…」とのスタンスで、医師・看護師・職員・家族が連携し実践しており、利用者の人生に最期まで寄り添うことが職員の自己成長に繋がっている。環境づくりも大切に、中庭・外庭には多くの草花を植え、ウッドデッキやベンチを設置している(初夏には地域住民や家族を招待しホテル観賞会も開催)。ホームの雰囲気は明るく、訪問当日も利用者と職員が談笑されていた。—『介護のあり方』を深く学ばせてもらえるホームである。— ◎前回、前々回の評価時の資料写真も、参考として添付

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①「職員全員で自己評価を」との取組みを期待したが、まだそこには至っていない(職員個々に自身のケアを振り返る機会にもなるので、次回の評価までの1年でその仕組みを整えていってもらいたい)。②『老楽講座』を開催することができた。介護者向けサロン作りについては進捗中。③ホームの看板を作成し、誰もが立ち寄りやすい工夫をした(家族からの提案を実現できた)。
重点項目②	職員に聴き取りをしながら、管理者が作成した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、利用者・家族・民生委員・町内会会長・農区長・地域包括支援センター職員・ボランティア代表・ホーム職員が参加し、4か月に1度開催されている。意見交換は活発に行われており、会議を通じて地域連携が活発になっている。会議で議題となった“介護教室の実施”に関しては、『老楽講座』とネーミングして、西村医師の協力のもと老年医学の講義を行った(平成20年9月・参加者34名)。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
重点項目④	毎月、ホーム通信で行事やホームの近況報告を行い、「会話記録シート」により利用者のそれぞれの様子を報告している。面会の際には、家族の意見を聴く機会を持つように心掛け、出された意見についてはミーティングで話し合い、ホーム運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	認知症ケアの理解と周知活動として「通信」を発行し、隣組(60組)に回覧してもらっている。町内会との連携により、住みよいまちづくりのための推進活動も行っている(地域住民や利用者の散歩コース「平木橋」にベンチを設置してもらい、公民館のトイレの一部を高年齢や障がい者が利用しやすいように改装してもらい…等々)。

◎食事を楽しむことのできる支援

◎地域とのつきあい

地元中学校の生徒の職場体験学習（ふきを使った調理、巻きずし作りなど）



◎居心地のよい共用空間づくり

廊下に備え付けの家具は、手ががり(手すり代わり)にも…



◎居心地よく過ごせる居室の配慮

利用者それぞれに馴染みの物で…







▲ホームにはたくさんの植木が…（中庭のせせらぎにはホタルも飛び交う）



▲各居室にはお気に入りの暖簾



▲家族の作品を飾り付け  
（家族の訪問も多い）



▲協働（入居者が若いスタッフに調理指導をすることも…）



▲無農薬野菜を定期購入



▲散歩コースの神社にスロープを設置  
（住民参加による運営推進会議の成果）

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の1つに「家族や地域の人の声と力を大切に開かれたグループホームを目指す」と掲げ、地域との相互交流を大切にしながら、利用者支援につなげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関にも掲示している。「利用者と共に地域で暮らしていくこと」を念頭に、地域の方の認知症への理解浸透に努めている(地域の神社、理美容室、公民館、喫茶店等へ利用者とともに外出している)。地域の一員として、利用者と共に地域清掃に参加するなど、日々、理念を意識している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内会長には運営推進会議のメンバーになってもらっている。地域の秋祭りの休憩所にホームの駐車場を開放している。毎年のトライやるウィークの受け入れも定着している。管理者は加古川北高校の講師や老人会の講師等も務め、地域の方に認知症介護について伝える機会をもっている。民生委員からも、勉強会の講師依頼があり計画している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の意義については、全職員が周知しており、ミーティングにおいて、検討・改善に向けて前向きな話し合いを持ち、取り組んでいる。	○	自己評価は、職員の自らのケアの振り返りの機会と捉え、全職員で取り組んでほしい。



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの近況報告のほか、(認知症介護の)地域の拠り所としての話し合いが持たれている。介護教室『楽老講座』の開催に続き、家族介護者の情報交換やほっと一息できるような、家族介護者の集いの場所となるサロン作りを計画している。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者がキャラバンメイトとして市と連携し、認知症の啓発活動を活発に行っている。稲美町役場での、認知症サポーター養成研修では、利用者が、「多くの人が出会えていくことで、良い地域になると思います。」と発表され、認知症高齢者であっても、地域の理解があれば、普通に暮らしてゆけることを伝えている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りの送付時に、利用者の体調や暮らしぶりを報告する個別のお便りを同封している。家族の訪問時には、コミュニケーションをとることを大切にしている。家族会の日には、利用者のホームでの暮らしを感じてもらうために、一緒に料理を作ってもらい、食事を楽しんでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内・外の苦情窓口の広報はもちろんのこと、面会の際や家族会(年2回)の折などに、意見が言いやすい場面作りを意識して作っている。家族から、野菜づくりもしてほしいとの要望があり、きゅうり・トマト・ゴーヤなどを利用者や職員が協働して育てている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は、ほとんど無く、日々馴染みの関係が継続できている。利用者の“良い変化”を感じること、職員の意見が運営に反映できることが、職員のモチベーションアップに繋がっており、これが離職の少ない理由である。出産休暇後、復帰する予定の職員を、利用者が心待ちにしているなど、ともに暮らす家族としての信頼関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や宅老連、2市2町の研修など、年間計画を立て、必要と思われる職員に受講を促している。ミーティングの機会を利用して伝達研修を行い、知識や技術を共有している。定期的には、2カ月毎に内部研修を実施している。管理者や看護師に外部研修の出講依頼があり、これも自己啓発に繋がっている。日々、職員の「気づく力」を養えるように、指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に2市2町グループホーム連絡会での交流を持ち、2カ月ごとの勉強会(医師より発熱・血圧上昇時の対応)を持ち回りで実施し、サービスの質の向上に取り組んでいる。グループホーム管理者連絡会にも参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居間近になると、日中に家族と一緒にホームで過ごして頂き、不安を取り除く工夫をしている。また、家族に昔のアルバムを持参してもらい、昔の話を教わりながら信頼関係を築く努力等もしている。入居当初の不安に寄り添うため独りになる時間を少なくし、皆との輪作り、雰囲気徐徐に馴染めるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を大家族の一員として、接している。利用者から郷土料理(ご汁・唐餅など)の作り方や、昔の風習、言い伝え、行事を教えてもらったり、ふと出る言葉からその利用者それぞれが送ってこられた人生を知り、いろいろと学ばせて頂いている。職員の結婚披露宴をホームで開催するなど、皆が「家族」として、日常生活のなかで喜怒哀楽を共有している。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、家族にバックグラウンドシートを記入してもらっている。会話ノートを活用し、利用者の思いを職員が共有できる工夫をしている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会話ノートを活用し、月1回ミーティングを行い、その中で出た意見をケアプランに反映させるようにしている。家族が来訪時には、意見を聴くように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画を作成している。日々の健康状態の把握ができています。本人の様子を見ながら、いつもと違う「気づき」を大切に、心身の変化を見のがさないようにしている。変化のある場合は、随時に現状に即した介護計画を作成してすぐに対応し、翌月にモニタリングを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緩和ケアをはじめ夜間時や緊急時の医療連携体制が整っている。主治医の訪問が日に2回あり、利用者、家族の安心に繋がっている。認知症デイも実施している。同法人のデイサービス、訪問介護事業所と協働でイベントを開催している。合同行事への参加は利用者の楽しみごとにもなっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長が主治医を務めている。利用者、家族、主治医、管理者が話し合い、必要性に応じて他の病院を受診できるようにも支援している。毎日、法人内の看護師の訪問があり、体調についての相談ができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、家族等から同意書を頂いている。状態変化がある場合は、その都度、家族・医師・管理者が頻回に話し合いを行い、利用者と家族の気持ちに寄り添っている。ベッド上の生活が多くなった利用者には、理学療法士の指導のもとポジショニングを行い、安楽に過ごせるように支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に「利用者の権利宣言10」を掲げ、利用者の尊厳やプライバシーを大切に支援を行っている。個人情報の取り扱いについても徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、長年過ごした生活が継続できるように支援している。神社へのお参りなど一人で外出したい方は、見守りながら、自由にしてもらっている。日曜日にはキリスト教会へ礼拝に行かれる人もいる。利用者が、家族に自筆で手紙を、送れるように支援している。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は保存食(梅味噌・梅干し・らっきょう漬けなど)や体に良い健康食(どくだみ茶・バナナ酢・カスピ海ヨーグルトなど)を作り、利用者と一緒に楽しみながら食している。また、利用者の持てる力を発揮できるように、調理から後片付けまで、利用者と職員が話し合いながら協働で行なっている。“家庭の台所”のようである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、利用者一人ひとりに合わせて入浴が楽しめるように支援している。季節湯も実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	数多くのボランティアの来訪(寸劇・コーラス・手品・フラダンス・沖縄三味線・和太鼓・大正琴演奏…等々)があり、利用者の楽しみになっている。バザーに出品する利用者作品(指編みのマットやわらじなど)も、利用者の生活歴を活かして楽しみながら、手作りができるように支援している。トライやるウィークでは、利用者が生徒に、自身の持つ調理の技術も伝えている(ささがきごぼうや巻き寿司のまき方)		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は、近隣への散歩や近くのスーパーでの買物や喫茶店などへ。「故郷に行きたい」と希望のあった利用者の想いの実現のため、管理者が家族と同行し故郷への旅も実現できた。ボランティアの協力を得て、旅行の写真を使用して音楽入りCDを作成した。これは利用者と家族の大切な思い出の品になっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける弊害を職員が周知しており、日中の施錠は行っていない。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、夜間の対応、緊急電話のかけ方、消火方法、避難方法など訓練を行っている。また災害時に備えて、地域消防団と連携や食糧の備蓄も行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの小さな気づきもチェック表に記入している。常時の把握が必要な方は、食事・分量も日々記入している。便秘症の利用者へは手作りのバナナ酢やカスピ海ヨーグルトを食してもらっているなど、利用者の状態に合わせて支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は、リビングの日除けを兼ねて、テラスでゴーヤなどの野菜、あさがおを栽培し、緑を楽しんでもらっている。リビングや廊下には、ホーム庭に咲く季節の花や近隣から頂いた花を活けている。中庭では、楽しく憩えるようベンチが設置され、デッキは、お茶ができるようにテーブルと椅子が設置され、テーブルクロスや花を飾り演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。会話の中からも利用者の思い出の物、馴染みの物を感じ取り、家族にお願いし持って来てもらっている。ベット上での生活が多くなった方は、好みの音楽のCDを家族に用意していただき、聴いてもらったり、アロマセラピーを実施するなど、居室でゆったり過ごせるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。